



「改訂対応を地域ぐるみで」 萩本代表「ぐるみ」の思いを



「地域ぐるみ環境ISO研究会」と飯田市が主催、南信州広域連合が共催の環境ISOイベントが8月23日(火)夕から市役所で行われました。「ISO規格改訂を地域ぐるみで、環境マネジメントシステム ISO 14001 2015年版改訂にどのように準備し対応しているかを発表し合い地域全体で確認しようという狙いです。



萩本代表からは研究会の名称の「地域ぐるみ」に込めた強い思い、誕生から年末には設立20周年を迎える研究会の今日に至るまでの熱い説明がありました。これまで事業所代表者や実務者が交代するなかで研究会としての活動を続けてきましたが20年間リーダーシップを発揮してきた萩本代表の存在が大きい故に今後が難しい...



研究会事務局で環境マネジメントシステム審査員の資格を持つ多摩川精機株式の福岡さんから改訂の概要説明。20分間という限られた時間、要点を絞りメリハリある説明でした。今回は特にパワーポイント、プロジェクターを使わない試みでしたので発表者はそれぞれに工夫したフリップを使い説明していました。

環境ISO改訂の概要は 飯田市役所・夏目光学の対応



改訂の概要を踏まえ、取り組み形態の異なる3つの事例の発表。その1、飯田市役所の自己適合宣言。審査登録から移行し「自己」「適合」「宣言」のため独自の仕掛けは内部監査に参加するなど研究会の活動と深い連携による運用です。民間主導の研究会にあっては飯田市役所も単なる1つの参加事業所。しかし、環境モデル都市など環境施策を展開する行政という立場もあり、環境ISOの運用は市役所の中だけのものにとどまらず、地域全体を見据え、拡大発展するものであると牧野市長は結びました。



その2、光学レンズメーカーの夏目光学株。研究会参加事業所の多くが審査登録を継続していて夏目光学もそのひとつ古くからある地元企業が世界で高いシェアを持ち、そのレンズが携帯電話など身近な製品のほとんどに組み込まれていることを知りませんでした。ISOは企業の生き残りの最低条件だとも。本田管理本部長からは規格改訂には幹部社員の外部の研修受講と全社員の研修をすでに実施したと徹底した取り組みでもあった。まだまだISOは自分たちの仕組みになっていないと手厳しい評価です。地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」の普及や支援には、もっと業種に特化した経営ツールとしてのメリットを強調した説明をすべきだとの提案も。また、人材採用募集については1社ごとが大学に出向き対応するのではなく県内諏訪地方のように地域全体での取り組みにと要望も。

三六組 追求の結果の形態 移行は2018年9月まで



その3、「南信州いむす21」の最高レベルである「ISO 14001南信州宣言」取り組み事業所の建設会社(株)三六組。長坂社長からは、審査のためのISO活動ではなく、建設業として何が環境のためになるのか、何が業務のためになるのか、その追求の結果がこの運用形態であると本音の発表がありました。地域貢献活動もその結果のひとつだと。「ISO 14001南信州宣言」ながら、審査登録を継続する品質システムの改訂対応に合わせコンサルタントによる勉強会を社員の負担も考慮し短時間で計画的に進めていると。建設業として私たちよりも自然を相手に自然を身近に感じているので、この地域の自然の良さをリーニア時代に向け、自信を持ってPRすべきだと提案がありました。



今回の規格改訂の主な変更点に戦略的な環境マネジメントシステムがあり、事業プロセスの統合や他のマネジメントシステムとの統合が求められる。飯田市役所は行政評価、人事評価、環境ISOの3つを統合するための作業を進めています。2004年版からISO 14001:2015へ認証移行期間は、規格発行から2018年9月14日までの3年間です。地域独自の環境マネジメントシステムを持ち、審査・相談など支援を担っている研究会。自分の事業所のシステム対応とともに「南信州いむす21」対応も大きな課題です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会の実務者会 規格改訂対応 話題提供



「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の「実務者会」が飯田市役所で開かれました。研究会参加事業所は現在 28 事業所、うち 19 事業所 24 人の実務者が出席して行われました。研究会には 2 つの全体会があります。事業所の代表者と実務者の両方が集まる「事業所代表者全体会」、実務者だけが集まる「実務者会」。

まずは変更となった実務者を確認。次に、イベント運営など 4 つのグループで検討・準備を進めています。研究会設立 20 周年記念事業の確認。12 月 13 日は、ずいぶん先のことと感じていましたが、早 3 月後です。

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州 いむす 21」の更新審査については、審査申し込みを今年度内に予定されている事業所が 11 件。実務者はグループで審査員として現場に出向き更新審査を担うこととなります。協力を要請しました。

ISO 14001 規格の 2015 年版改訂に対応する「南信州 いむす 21」のシステム対応や審査対応については、主な研究会参加事業所が ISO 14001 更新審査を受けた後の 2018 年 1 月以降にプロジェクトチームを編成し対応する方向とすることが確認されました。2004 年版からの認証移行期間は規格発行から 3 年間、2018 年 9 月 14 日までです。特に「ISO 14001 南信州宣言」4 事業所、「上級」の 8 事業所への対応が気になりますが。



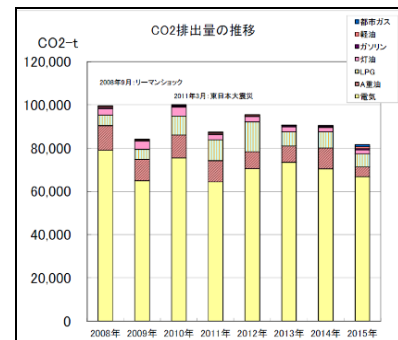
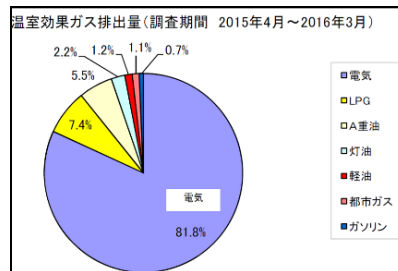
出席者からそれぞれの事業所における話題を限られた時間ながら提供し合い出席者全員の声を聞くことができました。やはり新規格への移行審査の話題は多いものの「生物多様性」「電力の自由化」「都市ガスの自由化」など異業種の集まりである研究会ならではの話題も。組織や体制の変化への悩みなどの話題は研究会運営でも共通です。

温室効果ガス排出量 研究会としての集計結果

実務者会では、事務局から温室効果ガス排出量の集計結果の報告がありました。この調査は、研究会参加事業所を対象に 2008 年度から始めた独自の調査です。まだ 8 年間ですが毎年 4 月から 3 月までの 1 年間の結果を集計しています。

各事業所はそれぞれに温室効果ガス削減の取り組みを実施しその成果を確認しています。しかしこの地域全体の結果は把握できていません。「地域ぐるみ」で行っている私たちの活動の成果が全体としてどうなっているか調べて研究会だけでも把握したいと始めた調査です。

集計表(エクセル)をメール添付して、実務者から返信報告された情報を集計し、報告しています。様々な業種からなるとはいても多いのが電気からの排出量です。



2008 年のリーマンショックによる経済活動の停滞、2011 年の東日本大震災を契機としたエネルギーの使用の変化への影響もあるでしょう。

データを取得した 8 年間の傾向として、温室効果ガスの排出量は 2 割ほど削減しているようです。事業所数の増減、各事業所を取り巻く状況の変化もあり一概に言及できませんが省エネの取り組みは進んでいると考えられます。省エネ機器・省エネ機能が当たり前になりまた省エネに対する行動も定着してきていると考えられます。28 事業所による研究会だけでなく、この地域全体の傾向はどうなのでしょう。

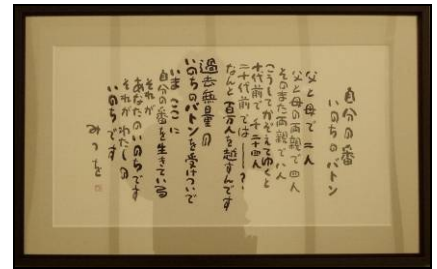
原点は「ぐるみ運動」 「次へ！」へ渡すバトン

「地域ぐるみ」「点」から「面」へ裾野を広げる「ぐるみ運動」、これが研究会の原点です。「環境 ISO」も。「ぐるみ」「くるみ」。研究会設立 20 周年記念事業に使えないかと、地元産の「くるみ」を調達しました。

見た目には汚れもあり痛いほど先が尖っている素朴なその実。ダイエットやアンチエイジングにも効果があるらしい健康食品のようです。



研究会設立 20 周年記念事業のタイトルは「地域ぐるみ！次へ！」。「次へ！」には多くの意味を込めています。何より研究会代表の交代、そして事業所代表者の交代、また事業所内での実務者の交代もあるでしょう。記念事業には飯田 OIDE 長姫高校の生徒たちも重要な位置づけで参加します。そんな様々なバトンタッチが「次へ！」なのです。



先週、参加したシンポジウムの会場近くにある「相田みつを美術館」。「自分と出逢うとき」という企画展。「自分の番 いのちのバトン」の書が唯一撮影できる場所にありました。「過去無量のいのちのバトンを受けついで」「いまここに」「自分の番を生きている」とその中にありました。

研究会も 20 年という過去無量のバトン。何人の人たちがこのぐるみ運動に関わってきたことでしょうか。「次へ！」いかにバトンを渡せるか。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅如(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会の事務局会議 顔を合わす会議も大切



「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の「事務局会議」が9月29日の夕方から飯田市役所で行われました。1997年12月に研究会が発足した時の6事業所の実務者による会議です。研究会の活動や課題に関し多くは実務者間でのメールによるやりとりで対応しています。できるだけ会議や実務者への負荷等を減らして活動が効率よく行われることが当然ながら求められます。

事務局がしっかりしていること、これが活動の成否に影響します。

ボランティアな研究会、本業以外の研究会活動は事業所の理解がなければ成り立つものではありません。その意味で、事業所代表者が一堂に会して年2回ほど行われる「事業所代表者全体会」は工夫された仕組みです。研究会がどんな活動をしているのか、どんな課題があるのか理解し共有する。参加事業所による情報交換も大きい意味があります。



「事務局会議」、今年度になって月1回のペースで開かれています。研究会設立20周年記念事業を行うため準備もあり頻度も多くなっている感じです。しかし20年を迎えボランティアな研究会ゆえの課題もあります。実際に顔を合わせ相談できる会議は実に頼りになります。一人で抱え込みがちな重い課題も、当面の課題も仲間と共有できます。メールでは代用できない安心です。

2016 秋の一斉行動週間 地域全体の取り組みに

期間 10月20日(木)～26日(水)
1週間

取り組み内容 A～C

- A ノーマイカー
- B 車のタイヤの空気圧チェックと適正化
- C 冷蔵庫の整理・整頓

私たちの研究会はCO₂削減を目的として毎年、一斉行動週間を設け行動をしています。研究会の参加事業所だけでなく、地域内の多くの事業所にも広げようというのが目的です。たとえ事業所内の小さな取り組みであっても、少しでも地域に広げたい…。まさしく研究会の「地域ぐるみ」の活動です。



研究会の参加事業所は環境マネジメントシステムの国際規格 ISO 14001 や地域独自のシステム「南信州 いむす21」に取り組んでいます。「南信州 いむす21」もそれぞれの事業所の実情に合った無理のない取り組みをしてもらいたいと始めたものです。しかしまだまだ、裾野が広がっている状況ではありません。

一斉行動は、設定した1週間という期間のうち1回以上、ABC 3つの「行動」のいずれか、または、すべてに取り組んでもらうものです。行動は職場において家庭において展開できる3つだけに絞りました。「そんなことが一体何になるんだ」ほんの小さな取り組みですが関係する事業所・組織に地域での多くの展開を仕掛けている最中です。

研究会のホームページに関する書類を載せてあります。「通知」や個人が記入する「取り組みカレンダー」、事業所の集約「報告書」など。

研究会 20 周年記念事業 次につなげる仕掛けを



研究会の設立20周年記念事業の準備も進んでいます。式典が行われる12月13日の1日だけのイベントに終わらせることなく次につなげるため少なからず汗かかっています。

当日のイベント会場は収容人数200人の人形劇場、大きな講演会はありませんが研究会(参加事業所)だけのものに終わらせることなく式典を契機に多くの人たちを巻き込んでいく仕掛けを考えています。

地域の様々な業種の事業所による私たち研究会ゆえのメッセージを次の世代へ発信していくつもりです。来春も、この地域を巣立っていく多くの若者へ、地域で働く研究会メンバーからのメッセージです。



研究会ホームページを紹介するQRコード。若者へのメッセージも載せるつもりです。メッセージ届かな。

ぐるみ通信の発信再開? 時にもメールのアドレス整理に苦労しました。継続した活動はアドレス整理だけでも大きな力です。参加呼びかけの通知で苦戦し痛感しました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



見方、考え方を補い合う コミュニケーション



「地域ぐるみ環境ISO研究会」の研究会設立20周年記念事業は4つのグループにより準備が進んでいます。事務局として、全体の進捗管理やグループ間の調整の必要もあるためできるだけ4つの会議に参加しています。そこでいつも感じるのは、それぞれの担当者が持つノウハウ、その集積としての検討結果は凄いということです。いつも感心させられます。研究会は業種も規模も異なる事業所の集まり、それゆえものの見方、考え方の違いがそれぞれの偏ったものを補い合います。

「三人寄れば文殊の知恵」、どうやら、この言葉は「凡人」が集まる意味らしいので「凡人」ではない人たちが集まれば「文殊」に近づくのはそう難しいことではないのでしょうか。



そして、いろいろな人たちとの折衝などで驚かされることも多くあります。驚きというよりも寂しい思いをすることがあります。高校を来春に卒業する3年生に研究会からあるメッセージを送るよう準備を進めています。飯田・下伊那にある8つの高校、窓口となる先生とのやりとりにもショックなものがあります。私たちと高校生との世代のギャップ? 教育現場での実態と自分たちの認識とのズレ? 押しつけのメッセージにしないように考えなければなりません。コミュニケーションは難しいですね。

研究会としての20年間 様々な取り組みがあり

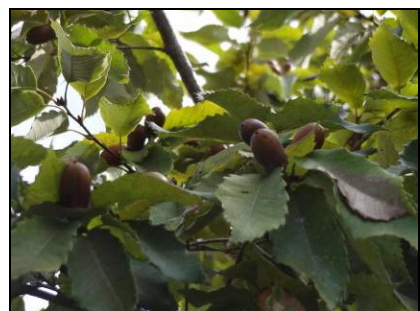
10月20日(木)から26日(水)まで期間を設定した一斉行動週間の取り組みへの参加のお誘い予想以上に苦戦しました、大変でした。前回は依頼文書や取り組みカレンダー、報告書を郵送して依頼しました。経費もそれなりにかけていました。

今回の呼びかけは、できるだけメールで行おうと、見つからない場合はファクシミリでと事業所のホームページなどからメールアドレスを探してみました。なかなか見つからないものです。日頃からのメールアドレスの管理は大事です。



研究会 20年の取り組みも振り返っています。研究会では飯田市が行っていた「生活と環境まつり」にブースを出して参加してきました。当初は活動を紹介する展示だけ、立ち寄ってくれる人はわずか…。反省して、参加型のブースへ移行。里山にみんなで間伐に出かけて、間伐材を輪切りにし枝なども集め木工の材料を用意。みんなでドングリを集めてクラフト教室です。

写真は12年前11月に行われた「生活と環境まつり」での大盛況の研究会ブースの様子です。松本市や長野市で行われた「信州環境フェア」にも参加してきました。クラフト教室こそしませんでした。ドングリは研究会参加事業所へ植栽しました。大きな木に育ち実をつけています。



PDCAによる継続的改善 「終わりなき進化」

「ぐるみ通信」のタイトルを少し変えてみました。常に継続的改善。改善は終わることがなくいつまでも続いていきます。私たちの研究会が20年ほど前に発足した時の名は「地域ぐるみでISOへ挑戦しよう研究会」です。PDCAによる挑戦。

私たちが取り組んでいる環境マネジメントシステムの根底にあるアプローチの基礎は、PDCA Plan-Do-Check-Act という概念に基づいています。継続的改善を達成するための反復的なプロセス

- Plan : 組織の環境方針に沿った結果を出すために必要な環境目標及びプロセスを確立する。
- Do : 計画どおりにプロセスを実施する。
- Check : コミットメントを含む環境方針、環境目標及び運用基準に照らして、プロセスを監視し、測定し、その結果を報告する。
- Act : 継続的に改善するための処置をとる。

研究会という組織も運用している「南信州いむす21」として仕組みも改善すべき点として把握しているだけでもまだまだたくさんあります。組織の事情で対応できないことも実は多いものです。限られた資源と力量、その範囲内で一体どのような効果的な対応ができるか、です。

設立20周年を研究会組織や活動の見直しの大きなきっかけとしたいものです。今回は外部からの検証が記念式典で行われます。研究会はこれまでもその取り組みや課題を整理し、環境関係のコンテストに応募して、外部からの評価を受け、次のステップへの見直しを行ってきました。受賞というエールに勇気づけられ、選外という結果に反省してきました。20年間の取り組みを整理して今年も応募しています。結果を研究会の次につなげるため。

【ご意見 お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅如昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会発足・参加の思い 再確認し結びつきを強く



「地域ぐるみ環境ISO研究会」の研究会設立20周年記念式典は12月13日(火)に人形劇場で行われます。式典は半日だけの内輪のイベントにすぎませんが、このイベントを研究会の次への大きなステップにつなげたいと、様々な取り組みが進められています。「20年」、改めてその長さと感じています。

20年を振り返り、今抱えている課題、これから何をすべきか整理したい...。環境マネジメントシステムISO 14001の規格が10年余ぶりに昨年改訂されたのも何かの縁です。今回の改訂の背景にISO運用の形骸化や有効性への疑問があります。これまでの手順や文書・記録重視からプロセスや結果の重視へと目ざすものも大きく変わっています。

地域内の規模の小さな事業所のために運用している地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」も、本来の目的からのシステム改善がまさに求められています。

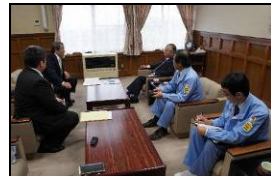


自分たちの組織・仕組みだからこそ把握している課題があります。しかし、変えるのには大きなエネルギーも必要でそっとしておこう、そんな課題の先送りもあります。

20周年を機に研究会「発足時」の思い「参加時」の思いを再確認していけたらと願います。20周年への取り組みで仲間の結びつきが強くなってきています。大きな力です。

20年間の記念誌は 「グローバルネット」で

研究会20年の記念誌発行をとの意見もありましたが、そのエネルギーは「次へ」使うことにしました。そんな時、縁ある「地球・人間環境フォーラム」から月刊機関誌『グローバルネット』11月号での研究会の特集を提案してくれました。原稿はメンバーで担当したものの重複など編集もきっと大変でしょう。巻頭の萩本代表へのインタビューは平野専務が飯田に来て代表から直接に時間をかけて行ってくれました。



インタビューに同席しましたが平野専務は萩本代表から本音を次々に引き出し、代表の話は聞く機会も何度もあったものの初めて聞く内容も多く驚かされました。オフレコを含めどのようにまとめるのか記念式典で配付される『グローバルネット』が楽しみです。

飯田での現地調査を踏まえ記念式典で研究会の外部検証をお願いしているのは早稲田大学大学院の松岡俊二教授です。急に連絡したいことがあったのでメールしたところ早速に返信があり助かりました。「環境省の砂漠化対策事業の会合で、モンゴルのウランバートルに来ています。ウランバートルは夜に雪が降りすっかり雪景色ですが、日中はよく晴れて良い天気です...」と。大相撲の力士の出身地でよく聞く地名、飯田の地にいて世界とつながるネット社会を知らされました。

20周年記念事業は研究会以外の様々な立場の人が様々に関わって成り立っています。これも研究会の長さゆえなのでしょうね。

「旅立っても」「忘れないで」 「ふるさと飯田へ」戻ってきてほしい

飯田下伊那にある高等学校8校、来春の卒業予定者数は1,500人余。その卒業生の多くが進学で、また就職で飯田の地を離れて行きます。大学のない当地方では仕方のないことでしょうか。私たち研究会が取り組む環境改善活動は、いったい何のためにしているのでしょうか。

取引先からの要求のため、イメージアップのため、省エネ省資源による経費節減のため、経営改善のためでしょうか。もっと純粋に私たちが引き継いだ地域の豊かな自然を、環境を次の世代へ引き渡すためでしょうか。私たちはメッセージを添えてエコバッグを1,500人余の卒業生全員に贈ることにしました。



私たち、研究会の活動が今年度、20周年を迎えます
「地域ぐるみ環境ISO研究会」は、20周年記念事業として、H29.3月に卒業するあなたに「環境iida(エコバッグ)」を贈ります。
卒業し、飯田の地を離れてもまた戻ってきてほしいという想いをこめて。



担当しているのは女性の実務者全員です。大きさ、デザイン、そしてメッセージ、8校への配布の調整、式典後もこの取り組みは続きます。「南信州いいむす21」に取り組む飯田OIDE長姫高等学校生徒会に先ず記念式典で贈呈します。式典テーマは「地域ぐるみ!次へ!」です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki_co.jp
小林梅昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



上田市役所 事務局内部監査 参加しました研究会5人で



文化の日の前日、11月2日(水)飯田よりは紅葉が少し進む上田へ相互環境内部監査に出かけました。かつては環境ISOに取り組む長野県内の自治体でネットワークを作り、システムや運用について研究し、お互いの環境内部監査に出かけ、受け入れていました。審査登録から自己適合宣言にいち早く移行した飯田市役所の環境マネジメントシステムの改善にも貢献してきました。

飯田市役所の環境マニュアルには「地域の事業所及び県内自治体等との間で内部監査に受け入れ、出向く相互内部監査を行います」と位置づけ、明確に定義しています。

しかし、ブームのような自治体のISOが高額な審査費用を大きな理由に別のシステムに様変わりし、また取りやめたりと自然消滅していくのにネットワークも当然のことのように活動を停止しました。

行政にとっては今では当たり前の市民や民間からの評価という試練・苦痛に馴染めなかったことも自然消滅の大きな要因かも知れません。

文字どおり内部監査は組織内の人間が監査を行うものです。相互内部監査は、手前味噌にながちな内部監査に外の目を入れるというもの。自己適合宣言において弱い客観性や透明性を補う「仕掛け」のひとつです。「地域ぐるみ環境ISO研究会」に参加する事業所として、飯田市役所は研究会メンバーの民間企業と活動を通じて連携を深めてきました。飯田市役所のISOは研究会抜きには考えられません。

さて、研究会として、監査員3人、オブザーバー2人で参加した上田市役所ISO事務局の内部監査はその位置づけや進め方でも文化の違いを痛感させられました。組織のシステムは現在の環境状況や歴史の違いにより様々、それぞれです。

飯田 OIDE 長姫高校生徒会 南信州いむす21 の審査

地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いむす21」にはこの地域の8つの高校のうち飯田OIDE長姫(オーアイディーイーおさひめ)高等学校だけが取り組んでいます。登録は学校ではなく「生徒会」です。

飯田OIDE長姫高等学校は2013年4月に飯田工業高等学校と飯田長姫高等学校が統合して、旧・飯田長姫高校の所在地に設置された県内初の総合技術高校です。

南信州いむす21には統合前の飯田工業高等学校生徒会が2002年8月に取組宣言を行い、2004年5月に初めての登録証交付がありました。登録証の有効期間は3年、今回4回目の初級の更新審査です。



ISO委員会3人と美化委員会2人計5人の生徒が研究会による審査を受けました。統合後、長姫高校だけに制服が残っているとのこと。ISO委員会の委員長は作業服にネクタイ姿、教員?と見間違えるほどでした。言うまでもなく高校生は3年で全員が入れ替わり、担当の教員も異動で替わり、活動を継続していくことはとても難しいこと。

素直な生徒たちは悩みながら、お互いに相談しながらも研究会の審査担当による質問に答えていきます。この生徒たちが役員を引き継ぐ時に研究会によるサポートができていればもっと楽しく活動が展開できたのにと反省しました。

見せていただいた生徒手帳には環境方針が3ページにわたり印刷されていました。すごいことです。

部屋には古い写真が掲げられていました。長姫高校硬式野球部が「小さな大投手」光沢毅を擁し第26回選抜高校野球大会で全国優勝を遂げた1954年のもの。南信州いむす21も「小さな伝統」になればと。

秋の一斉行動の報告 報告には工夫した事例が

研究会が呼びかけて行った2016秋の一斉行動週間の参加報告書が事務局に届き始めています。今回は郵送ではなくメールとファクシミリで呼びかけできる事業所に限定したためどれだけ協力してもらえるか心配でしたが多くの報告に一安心。

今回の一斉行動は10月20日(木)~26日(水)の1週間、ノーマーカー、タイヤ空気圧、冷蔵庫の整理整頓に絞った取り組みとしました。全体の集約は報告書に書かれている人数、取り組み回数等の積み上げですから報告書1枚1枚がとても大切です。メールアドレスの報告も助かります。

また、取り組みに当たって工夫したこと、日頃行っているエコ活動を報告していただきました。感心させられる、すごい工夫を紹介します。職場の中で活動についての会話が聞かれ意識していなかったことに気づき行動できよかったとの報告も。

ノーマーカー 転居を機に車を1台減らした・休日は50ccバイクで久しぶりに徒歩で出勤・車内を整理し不要品を下ろした・できるだけEV走行・満タ給油せよ少なめに・近くのコンビニは徒歩で(いつもは車)・自転車

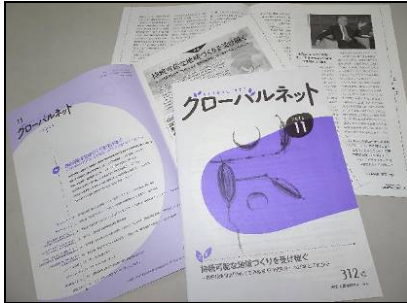
冷蔵庫の整理整頓 子どもと片付けルールを決めた・食品の置き場所を決めた・古い食材を思い切って廃棄・冷蔵庫を1台減らした・冷蔵庫の食材を食べ尽くした・食材は金属トレイに入れる・タッパーに入れ識別しやすく・賞味期限を確認し出しやすく・隙間を多めに・土日に整理・週末までに使い切り空に近い状態で新しい食材を先入れ先出し

エコ活動 会社から万歩計が支給・家電使用時間をタイマーで管理・テレビの視聴時間を毎日1時間減らす・水道のレバーは常に水側・水道の元を少し閉め水量を減らす・発熱素材のインナーを着て室温を少し下げた・家族1部屋で暮らし就寝時刻も揃えた・続けて風呂に入る・湯タンポで節電・炊飯器の保温は使わない・就寝を早くした・人感センサー付き照明に変更・オートOFFの家電に・こたつは電源を切り余熱で・エレベーターと自動ドアを利用しない・家電リストラ早めにカーテンLEDに

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi_toshiaki@city.iida.nagano.jp



「グローバルネット」312号 9ページで研究会の特集



「地球・人間環境フォーラム」が発行する月刊誌「グローバルネット」11月号(312号)が届きました。薄紫地にシランの実とネムノキの実の莢(さや)の表紙、その特集は「持続可能な地域づくりを受け継ぐ」～長野県飯田市「地域ぐるみ環境ISO研究会」の20年とこれから。

地球・人間環境フォーラムは、地球環境問題に関する科学的調査・研究、その成果の普及・啓発、政策提言に取り組む非営利の環境団体です。気候変動森林減少砂漠化など幅広い地球環境問題の解決や持続可能な社会の構築に向けて、行政、企業、NPO・NGO、メディアなどとの連携・ネットワークづくりを進めながら、分野横断的に取り組んでいます。

「地球・人間環境フォーラム」というネーミングには地球(自然)と人間の共生する環境づくりを目指すという意味とそのため行政、企業、研究者、NGO・NPO、メディア等の幅広い関係者が、自由に集い話し合い社会に働きかけるための、「共通の広場(フォーラム)」を提供したいという思いが込められているそうです。

表紙から研究会の特集ですが、目次に続く9ページ、そのトップ3ページは編集部の平野さんが来飯して行ったインタビューに基づいてまとめたものです。「20周年を迎えた地域ぐるみ環境ISO研究会代表を務める多摩川精機株式会社副会長の萩本範文さん～地域ぐるみの環境改善活動をリードしたのは郷土愛にあふれた一企業経営者」のタイトル。

研究会の成果と課題、これから、「南信州いむす21」は研究会事務局がその原稿を担当しています。「さらなるぐるみ運動に向けて」と最後はフォーラムの中村さん執筆。

萩本代表へのインタビュー 警世家としての顔ものぞかせ

フォーラムのご理解を得て、特集ページ全文PDFを、いち早く、研究会ホームページに載せてあります。事務局が担当した分はそちらをご覧ください。外の目、平野さんが萩本研究会代表へのインタビューをまとめた文を、短く紹介します。

◆環境問題は点ではなく面で行う地域活動、企業にとって最大のステークホルダーは地域。一事業者が自分のサイト内だけで取り組んでも、本来の環境問題の解決にはなりません。地域の企業、事業所や自治体はその枠を超え、連携してぐるみ運動を展開することによって地域全体がレベルアップする。...ISOの考え方が家庭に伝わればその取り組みは草の根の運動になります。結果として環境意識の高い街として全国にアピールすることができれば、人やものをこの谷に呼び、地域の活性化にもつながります。

◆スイスの精密工業を飯田市で目指したのは創業者、地域貢献を経営のモチベーションにした三代目社長。わが社は30年計画で信州の工業化を進め、農山村の郷土に欧州のスイス国のごとき世界に誇る精密工業を定着させて郷土県民の将来の生活安定を図りたい。最初の10年間は、東京に郷里の有能な青少年を集めて将来の幹部教育をし、会社の基盤づくりを行う。次の10年間は信州・飯田に工場を設置し、最後の10年間で飯田周辺の各市町村に工場を造り精密産業を広めたい。

◆地域のポテンシャルが高くなければ良い企業は育たない。私のようなオーナーでもない人間には特別のエネルギーが必要でした。大変な苦境を乗り切るためには、高い志を自分の中に据えないと、つぶれてしまう気がしました。私が自分の背中を押すエネルギーに求めたのは地域への貢献だったのです。創業社長の目指した地域産業の振興という哲学を自分の中に持ち込んで、自分自身を鼓舞するエネルギーにしました。...地域こそが経営の大本。会社は人がすべて。飯田では社員イコール地域で暮らす市民です。事業所と地域は共同体ですよ。

...経営というのはバランスですから、仕事だけを一所懸命にやれば経営が成り立つのかといえ、そんなことはありません。会社というのは不動の確固たる組織ではないのです。一晩でつぶれてしまうこともあります。人の心の中に傷が入ったら組織は割れてしまいます。毎日変化する会社組織を維持していくのは人々の絆なのです。...経営の極意は人を大事にすることに尽きるようだ。

◆企業と行政が車の両輪になって目指す環境文化都市、文化経済自立都市。若者たちが飯田を安住の地としてしまって、外の情報を自ら取り込もうとしなくなることに非常な危機感をもっています。...苦難を乗り越えてきた経営者は、警世家としての顔ものぞかせた。

研究会設立20周年記念事業 「グローバルネット」も配布

編集後記も嬉しい内容でした。何度も校正に応じていただき宝物の記念誌ができたこと感謝します。

今月号はさまざまな主体が地域ぐるみで環境改善活動を展開している長野県飯田市の取り組みを特集しました。地球の温暖化や世界各地の森林減少など環境問題はとくに国際的な問題になりがちですが、「環境問題は点ではなく面で行う地域活動」と豊かな自然や住民同士のつながりなど地域ならではの長所を生かし、一方でISOという国際規格も導入するという都市志向でない多様な発想はとて新鮮に感じました。

日常生活から企業経営までを自然と調和させ理想的な国家や地球環境を考えている「環境文化都市」を方ねてみたいと思いました。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅如姐(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



研究会設立20周年記念事業 13日に「環バック」も納品

20周年を迎える「地域ぐるみ環境ISO研究会」、その記念事業の準備を進めてきましたが、記念式典が来週12月13日に迫りました。

「地域ぐるみ！次へ!」、これが記念式典のタイトルです。研究会のこれまでの活動を冷静に振り返り、これからにつなげるものとしたい、その思いを簡潔に表現しました。ありがちな無理な動員をして数を集めるイベントにはしたくない、会場も飯田人形劇場とし、暮れの忙しい1時期の設定へ配慮しました。



研究会実務者の女性メンバーによって進められてきたエコバッグ「環バック」が納品となりました。「次へ!」飯田下伊那にある8高校を来春に卒業する1500人余の生徒全員へ研究会から贈るメッセージ。卒業を機に様々な土地や分野へと羽ばたく高校生へのメッセージです。

「環バック iida」の名前に飯田の地を大切に思っほしい、生まれ育った飯田の地に戻ってきてほしいという想いを込めて、レジ袋削減環境の観点から制作したエコバッグです。折りたたんだメッセージが届くことを心から願っています。

式典で飯田OIDE 長姫高校へ 全8高校へ出向いて渡します



昨日行われたエコバッググループの会合では式典のなかでの贈呈の流れと役割を確認しました。式典で「南信州いいむす21」更新登録証の交付、リレートークに参加する飯田OIDE 長姫高校ISO推進委員会ら6人にはセレモニーとして贈ります。

式典以降、それぞれが担当する8つの全高校に出向き、配るまで担当の責任です。早い高校は12月15日に、多くは1月2月に生徒の皆さんが集まる時期に合わせて贈呈します。「旅立っても」「忘れてほしくない」「ふるさと飯田へ」戻ってきてほしい、担当と研究会メンバーがメッセージを添えて渡す予定です。

この夏公表された学校基本調査、震災直後の熊本県を除いた全国の大学・短期大学進学率(現役)は55.0%、専門学校進学率は16.2%卒業者に占める就職者の割合は17.7%とのことです。この地域の8高校の状況とは異なるでしょうが多くの高校卒業生がこの地を離れ新しい生活へ挑戦することになります。「地域ぐるみ！次へ!」、まずは地域ぐるみで送り出したものです。



記念の「ぐるみ」アクセサリも完成しています。「ぐるみ研究会」の名にある「ぐるみ」の単なるシャレ。もちろん地元産の「ぐるみ」、同じ実ながら、その色や形はずいぶん違っています。見ているだけでも飽きない、実に楽しいものです。

「南信州いいむす21」交付式 南信州宣言に新たな動きも

(有)大蔵製作所に対する「南信州いいむす21」の登録証の交付式がありました。12月1日、南信州広域連合牧野連合長から飯田市長室で。

地元紙「南信州新聞」の取材もあり早速、記事で紹介されていました。「南信州いいむす21」という名前や取り組んでいる事業所が報じられ、関係者としては大きな励みです。



この地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」にもなかなか改善できない課題も多くあります。取組事業所の関わりや審査や支援のあり方など様々です。

システムの最上級であるISO14001南信州宣言レベルへの新規取組宣言が提出されました。この地域の新しい流れとして期待しています。また、取組事業所に対する資格審査を担っている南信州広域連合に属す町村にも新しい動きがあります。それらは研究会にとって新たな対応を求められるものです。



記念式典では研究会代表のバトンタッチも初めて行われます。「地域ぐるみ！次へ!」、様々な意味を込め研究会も次のステップへ新代表のもと模索を始めます。記念事業でより強くなった仲間との絆で...

【ご意見 お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林梅如(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



地域ぐるみ！次へ！

地域ぐるみ環境ISO研究会 設立20周年



「地域ぐるみ！次へ！」と題した「地域ぐるみ環境ISO研究会」の設立20周年記念式典が12月13日(火)15時から飯田人形劇場で行われました。参加された多くの方から「感動」とい言葉をいただきました。何よりも参加者を第一に考えた手作りの式典とすることを旨しました。実質150分、与えられた役割以上にそれぞれが気配りを持って関わり素晴らしいイベントになりました。

地域ぐるみ環境ISO研究会 20周年記念イベント
開会 15時
20年の振り返り
検証レポート
記念誌の紹介
(休憩)
環バック贈呈式
南信州いいむす21交付式
リレートーク①②③
代表ハトタッチ
閉会 ▶ 記念写真撮影

参加者は100人、研究会参加事業所の代表者と実務者、「南信州いいむす21」取組事業所関係者、そして私たちのこの企画への支援者です。参加者全員で作りに上げた式典です。右壁に映した次第と写真により式典を振り返ります。説明不足は皆さんの想像で補っててください。



受付で



ぐるみ
アグセサリー



司会は
羽生さん

開会宣言



田中
副代表

研究会20年の 振り返り(約10分)



スクリーンに



こんな
スライドも

「ぐるみ通信」創刊 2001



多くの
受賞も

△トス飯田賞 2015

20年の振り返りは懐かしい昔の画像(亡くなってしまった人の)も含め100枚近いスライドをアンドレギニオンのBGMでテンポよく映し出しました。会議の様子・ぐるみ通信001号と最新の348号・事業所見学会・環境イベント参加・南信州いいむす21・環境講座・温室効果ガス削減プロジェクト こんな取組も・懇親会・表彰といった区分で。研究会20年の長さを感じました。

「南信州・飯田市における持続可能な地域産業社会の形成から学ぶ 地域ぐるみ環境ISO研究会の20年とこれから」
早稲田大学大学院 松岡俊二教授



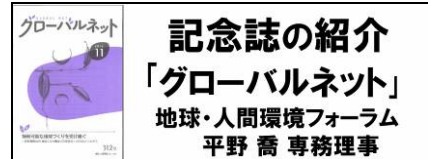
松岡
教授

今後の飯田市、環境ISO研究会のあり方

論 点

1. パリ協定により世界は、低炭素から脱炭素へと動きつつある中、飯田市は今後、低炭素社会形成をどのようにとらえていくのか？
2. 持続可能な社会形成に向けた日本モデルの自然共生社会および循環型社会形成の取り組みとどのように連携していくのか？
3. 産業活動に加えて、市民社会の取り組みをどのように連携するののか？
公民館活動やおひさまファンドの取り組み
⇒低炭素モデル都市の2本柱の間の連携は必ずしも連動していないのではないか
4. 持続可能な社会を見据えたときに、「環境」「社会」「経済」のうち、自立した経済をどのように形成していくのか？
- 低炭素化と産業成長の両立、「環境文化都市」と「文化経済自立都市」
- 雇用創出・若者の定着

研究会を調査して外の目で検証してくれた早稲田大学大学院松岡教授。プロジェクトメンバー3人と一緒に参加、直前まで発表資料を手直しし研究会のあり方について4つの視点で提案してくれました。



記念誌の紹介

「グローバルネット」
地球・人間環境フォーラム
平野 喬 専務理事



平野専務

月刊機関誌「グローバルネット」で研究会20周年特集を組んでくれた地球・人間環境フォーラム専務理事の平野さんは中村研究員とともに参加。飯田ファンの平野さん萩本代表へのインタビュー秘話？を紹介し代表の研究会の凄さを教えてくれました。

「環バック」贈呈式

南信州レジ袋削減推進協議会
助成 長野県環境保全協会飯田支部
飯田市



プロジェクトメンバー



旅立っても
忘れないで
ふるさと飯田へ
戻ってきてほしい



萩本代表から

「南信州いいむす21」 更新登録証交付式

南信州広域連合



牧野連合長から



リレートーク①

飯田OIDE
長姫高等学校



取組の発表

飯田OIDE長姫高校生徒の6人、「環バック」贈呈、広域連合からの「南信州いいむす21」登録証の交付、リレートークと続きました。まさしく「地域ぐるみ！次へ！」を参加者にはっきりと伝えられたと感じています。「環バック」贈呈式は担当の女性の実務者で進められました。「環バック」の名に込められた熱い思いメッセージが何よりも「次へ！」生徒の皆さんに届きますように...



リレートーク②

牧野光朗
飯田市長



牧野市長

牧野市長はりんご並木が飯田のまちづくりの原点であり、この地域ぐるみの研究会がこの地域の環境活動の原点であると、そして環境だけにとどまらず新しい産業創出など経済における発火点となったと。

脱炭素に向け考え次への行動のため引き続き萩本代表に関わりを



リレートーク③

萩本範文
研究会代表



萩本代表

20年ずっと代表として研究会に関わってきた萩本代表のトークは、研究会の設立から今、これからの参加者にわかりやすく伝えました。

きみまる風「あから20年」から始まり、実務者・代表者への感謝、新代表に対する支援と、都会との共存の課題のなか住みよ！地域の発展に研究会が寄与してほしいと締めました。萩本代表のトーク30分、7千字全文は研究会ホームページに掲載します。地域に環境に研究会に対する萩本代表の強い思いと戦略、伝わってきます。ぜひ、ご覧ください。



感謝状が



次第にもなく全くのサプライズとして会場の賛同を得て読み上げて贈られたのは事務局沢柳さんへの感謝状でした。いやぁ感動でした。



研究会代表
バトンタッチ



固い握手



森岡さんから

新代表 決意表明 関重夫 研究会新代表



関新代表

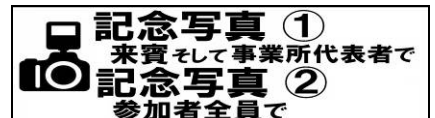
13年前の環境イベントで使ったどんぐりを植え育った木で作った席札での新代表へのバトンタッチ、固い握手、感謝を込めた花束贈呈。

関新代表からの決意表明は用意したものを使わずに式典全体から感じとった心温まる心強い言葉...

閉会宣言



大長
副代表
(代読)



記念写真 ①
来賓そして事業所代表者で
記念写真 ②
参加者全員で



最後にステージ上で参加者全員で集合写真。同じ時間を共有し作り上げた感動の中、全員がひとつになることができたと感じました。研究会の「次へ！」が始まりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp



「低炭素から脱炭素へ」 地域ぐるみ環境 ISO 研究会 代表 関 重夫

「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」は、1997年に京都で開かれた地球温暖化防止京都会議（通称COP3）と同じ年に発足した研究会です。この研究会は、20年という長きに亘る活動を経て、飯田市という環境モデル都市の礎を築いてきたことをご存じの通りかと思えます。

昨年の12月に開催された発足20周年の記念イベントで、その歴史ある研究会の席札のバトンを萩本範文代表から受け取りました。どんぐりの木で作られた席札のバトンは、飯田下伊那地域の28事業所で作る「地域ぐるみ環境 ISO 研究会」の20年に亘る活動の歴史が込められたもので、大変に重く、責任を感じると共に、心の底からこみ上げてくるものを感じました。その時の決意表明で、私は「感動」という言葉を使ったかと思いますが、今もその言葉をかみしめながら、これからの研究会について思いを馳せています。

この研究会が発足した1997年ですが、私が代表を務める多摩川精機株にとっても、1つの大きな転機が訪れました。それは世界初のハイブリッド(HV)自動車に多摩川精機株のセンサーが採用され、量産が始まった年でもありました。私は、事あるごとに、次の公式 $\{(12 + 16 \times 2) \div 12 = 3.7\}$ を引用して話をするのですが、この公式は $(12 + 16 \times 2)$ が二酸化炭素を表し、12が炭素(化石燃料)を表し、化石燃料を使うことによる二酸化炭素の発生量が約3.7倍であることを示しています。従来の自動車は、内燃機関

(エンジン)で化石燃料を使い走るのですが、それによって発生する多くの二酸化炭素が、地球温暖化の引き金となりました。HV自動車は、従来のエンジンとモータを併用することで二酸化炭素の排出量を抑えることができる、環境に適合した自動車として市場に登場したのです。発売当初は、それほど多く生産されませんでした。徐々に私たちの暮らしの中に浸透し、今では多くのHV自動車が周りを走るようになりました。多摩川精機株は、このHV自動車を通して地球温暖化を軽減する一つの役割を担ってきたと考えております。このような経緯は、丁度、地域ぐるみ環境 ISO 研究会の足跡と時を同じくしたことに、改めて感慨深い思いを抱きます。

昨年の5月ですが、米国テスラ社のイーロン・マスクCEOから、急に、米国に来るよう要請が入りました。そこでイーロン・マスクCEOが話したことは地球が誕生してから、地球上の二酸化炭素の量は、ほとんど変わらなかった。しかし自動車ができるからの100年間で二酸化炭素の量は急増し、それが地球環境を破壊している。テスラ社は、これから二酸化炭素を全く排出しない電池とモータで走る電気(EV)自動車を量産する。これがテスラ社の社会に対するミッションであり答えなのだ。今日は、そのために皆さんにきてもらった。是非、この活動に賛同し協力して欲しいと約1時間、熱弁を振るわれたのです。エンジンからHV自動車への転換は、二酸化炭素の排出量を減らすという「低炭素化」の転換でしたが、EV自動車は二酸化炭素を全く出さない「脱炭素化」への転換です。正にテスラ社のイーロン・

マスクCEOのスピーチは、「脱炭素化」社会に向けた構造転換の第一歩なのだ実感しました。地域ぐるみ環境 ISO 研究会が20年前に発足した時、HV自動車が登場し、そして研究会が20周年を迎えたタイミングでEV自動車の新たな展開が始まるということに、この研究会の不思議な背景、あるいは巡り合わせを強く感じます。

今後、この研究会の取組をどうしていくかを考えるとき、こうした周りの変化を捉え、この町の将来の姿を見据えながら、展望することも大事なことではないかと思っています。私たちの町、飯田市が日本あるいは世界の環境のモデル都市になるように、そして訪れる人達に美しい街として「感動」してもらえるように、関係する皆様のお力添えや知恵をお借りしながら一生懸命やっていきたいと思っておりますので、関係する皆様へのお願いを申し上げ、新代表としての決意表明とさせていただきます。



【ご意見、お問合せ】【配信解除】
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局
toshiyuki-sawayanagi@tamagawa-seiki.co.jp
小林敏昭(飯田市役所) 研究会事務局
kobayashi.toshiaki@city.iida.nagano.jp